施策マネジメントシート ～令和4年度の振り返りから令和5年度の取組へ～

①計画⇒実施 (Plan⇒Do)

(5月中に記入)

長期振興計画の位置づけ	まちづくり分野	ひと分野	担当課	高齢者支援課			
	政策分野	健康・福祉	課長名	柳田 さゆり			
	施策	20 地域包括ケアの推進		重点施策の該当	R4	-	R5
施策の目的	対象	高齢者	意図	住み慣れた地域で健康で生活できる			

施策の目標指標

目標指標(単位)	指標の推移(下段の()書きは見込み値)					
	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	令和6年度目標	令和7年度目標
要介護認定者等における介護度の維持・改善率(%)	-	-	60.1 (67.0)	(68.0)	(69.0)	(70.0)
元気度アップ・介護人材確保ポイント商品券交換数(枚)	7,845	7,654	7,905 (8,750)	(9,000)	(9,250)	(9,500)

市民アンケート調査の結果(施策に関する重要度と満足度)

令和3年度実績		令和4年度実績		令和5年度実績		令和6年度実績		令和7年度実績	
重要度(%)	満足度(%)								
84.0	34.0	86.7	35.6						
重要度DI	満足度DI								
82.6	14.6	85.2	17.7						

施策推進のための取組の成果を測る指標

基本事業名	関連戦略No.	成果指標(単位)	指標の推移(下段の()書きは見込み値)					
			2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度目標	6年度目標	7年度目標
介護サービスの充実		総合相談の結果、相談内容が終結した者の割合(%)	-	-	48.3 (77)	(79)	(81)	(83)
介護サービスの充実		地域高齢者支援協議会開催数(回)	36	38	37 (41)	(44)	(48)	(53)
介護サービスの充実		認知症サポーター数(人)	2,153	2,176	2,176 (2,200)	(2,250)	(2,330)	(2,410)
高齢者の社会参加の促進	10-24	高齢者地域支え合いグループポイント事業登録団体数(団体)	130	127	123 (140)	(140)	(150)	(150)
高齢者の社会参加の促進	10-24	元気度アップ・介護人材確保ポイント事業ポイント交換申請数(人)	1,330	1,271	1,203 (1,350)	(1,400)	(1,450)	(1,500)
高齢者の社会参加の促進	10-24	いきいき遊湯クラブ参加者数(人)	-	-	227 (1,310)	(1,320)	(1,330)	(1,340)

②-1 振り返り(Check)

施策を取り巻く環境変化・市民ニーズ等への対応	
<p>・本市の高齢化の状況は、令和5年3月末の時点で、65歳以上の人口が5,641人・高齢化率40.03%(前年比0.52%増)となっており、そのうちひとり暮らしの高齢者は2,201世帯(前年比29世帯増)、高齢者のみの世帯・人口は3,404世帯・4,617人(前年比16世帯・6人増)となり、年々高齢化が進行している。</p> <p>・本市の65歳以上の要介護(要支援)認定者における認知症高齢者数は798人(R4.10.1時点調査)で高齢者全体の14.1%を占めており、包括支援センターに寄せられる相談も増加している。</p> <p>・ロシアのウクライナ侵略や急速な円安の進行などの影響により、原油や穀物等の安定供給に支障が生じたため原材料・食料・燃料価格などが高騰し、高齢者福祉・介護施設等の経営にも甚大な影響が出ている。</p>	
施策の成果(貢献度の高い事業等)と現状・課題	
成果	<p>・元気度アップポイント事業、地域サロン及び元気アップ教室の参加者数は年々増加傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で活動休止を余儀なくされる期間もあり今年度も例年通りの活動が難しい状況であった。しかしながら、地域における「通いの場」は高齢者の介護予防にとって重要なものとして浸透してきていることから、地域で継続した取組ができるよう助言や指導を行い、高齢者の身体機能の低下につながらないように努めた。</p> <p>・介護サービス事業者等物価高騰対策として、エネルギー・食料品価格等の物価高騰の影響を受けた市内の介護サービス、介護予防サービス、介護予防・日常生活支援総合事業及び配食サービス事業者を支援した。</p>
現状・課題	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響が長引き、令和元年度からスタートした鹿児島大学病院との連携事業(種子島スタディ事業)が休止状態となっているため、当初の機能評価調査が終了している地域については、口腔体操の普及など専門職の協力を得ながらできるだけだけの取組を続けている。高齢者のフレイル対策については、特にこのコロナ禍において重要性が認識されているので、連携事業の再開に向けて地道な取組を着実に進めていく必要がある。</p> <p>・今後は特に認知症高齢者や身寄りのない高齢者の増加が見込まれることから、見守りや相談対応以外にも、成年後見制度等の効果的な活用のほか、行政や関係機関だけでなく地域の多様な業種の民間事業者等との連携など、多面的な視点からの支援体制の構築が求められる。</p>

施策マネジメントシート ～令和4年度の振り返りから令和5年度の実行へ～

今後の方向性	今後の方向性の根拠等(他施策との連携、総合戦略との関連、環境変化等を踏まえ記入)
拡大・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつになっても住み慣れた地域で、自分らしい自立した生活を続けていけるよう、地域、関係機関、事業所等との連携をさらに強化し、支援が必要な人を支える体制整備に引き続き取り組む。 ・要介護認定者を増やさないために、必要なサービスの利用促進や、様々な社会参加活動機会の創出、介護予防・認知症予防の事業を展開する必要がある。

②-2 政策部会による振り返り(Check)

(6月中に記入)

今後の方向性	政策部会で出された施策に対する意見等(将来像の実現に向けた課題や優先度、市民との協働のあり方など)
拡大・充実	<p>【市民福祉部会】 施策担当課の記載する方向性のとおり。</p>